

# Economic Indicators

発表日: 2020年8月19日(水)

## 貿易統計(2020年7月)

～米国向けを中心に輸出の持ち直しが続き、貿易収支(原数値)は4か月ぶりの黒字に～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
		原数値	季調値	輸出金額		前年比	輸出数量			前年比	輸入数量		
				前年比	前年比		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
19年	8月	▲ 1,522	▲ 1,821	▲ 8.2	▲ 11.8	▲ 5.9	▲ 3.5	▲ 1.5	▲ 8.9	▲ 6.1	▲ 3.0	▲ 3.3	▲ 4.1
	9月	▲ 1,291	▲ 726	▲ 5.2	▲ 1.4	▲ 2.3	▲ 4.0	3.7	▲ 6.0	6.7	▲ 1.0	8.8	8.1
	10月	112	▲ 1,097	▲ 9.2	▲ 14.7	▲ 4.4	▲ 6.7	▲ 8.4	▲ 7.1	▲ 6.1	▲ 7.6	▲ 10.3	▲ 7.0
	11月	▲ 884	▲ 1,729	▲ 7.9	▲ 15.6	▲ 5.0	▲ 9.7	▲ 10.3	▲ 2.7	▲ 8.1	▲ 1.4	▲ 10.6	▲ 8.5
	12月	▲ 1,591	▲ 1,307	▲ 6.3	▲ 4.8	▲ 1.9	▲ 11.4	▲ 7.4	0.5	1.2	▲ 5.0	2.5	0.5
20年	1月	▲ 13,151	▲ 2,268	▲ 2.6	▲ 3.6	▲ 1.6	▲ 8.9	▲ 9.1	▲ 1.5	▲ 1.7	▲ 19.9	1.2	0.3
	2月	11,066	4,236	▲ 1.0	▲ 13.9	▲ 2.4	▲ 4.5	▲ 9.7	▲ 0.9	▲ 17.3	▲ 11.1	▲ 8.5	▲ 25.0
	3月	72	▲ 2,269	▲ 11.7	▲ 5.0	▲ 11.2	▲ 15.9	▲ 9.1	▲ 10.5	▲ 2.5	▲ 1.8	▲ 2.6	▲ 2.6
	4月	▲ 9,312	▲ 9,522	▲ 21.9	▲ 7.1	▲ 21.3	▲ 36.9	▲ 27.7	▲ 11.8	1.5	4.2	▲ 0.2	5.6
	5月	▲ 8,413	▲ 5,524	▲ 28.3	▲ 26.1	▲ 27.3	▲ 49.4	▲ 34.8	▲ 11.4	▲ 14.6	▲ 22.8	▲ 26.3	▲ 8.7
	6月	▲ 2,693	▲ 4,109	▲ 26.2	▲ 14.4	▲ 26.9	▲ 47.0	▲ 33.0	▲ 17.7	▲ 0.8	▲ 12.7	▲ 6.3	▲ 0.0
	7月	116	▲ 348	▲ 19.2	▲ 22.3	▲ 21.7	▲ 21.5	▲ 36.7	▲ 11.4	▲ 14.0	▲ 28.1	▲ 12.6	▲ 10.8

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○米国向けを中心に輸出の持ち直しが続き、貿易収支(原数値)は黒字転化

財務省より発表された7月の貿易統計によると、貿易収支は+116億円の黒字(コンセンサス:▲715億円の赤字、レンジ:▲2,890億円の赤字～+1,614億円の黒字)となり、コンセンサスを上回る結果となった。輸出金額は前年比▲19.2%(コンセンサス:同▲20.5%、レンジ:同▲24.0%～同▲18.5%)、輸入金額は同▲22.3%(コンセンサス:同▲23.0%、レンジ:同▲25.7%～同▲19.2%)となった。7月は輸出の持ち直しが続いたことから、貿易収支は4か月ぶりに黒字に転じた。

品目別にみると、輸出については、自動車(前年比▲30.0%)や自動車の部分品(同▲32.5%)などの大幅な減少は続いたが、6月から下げ幅を縮小させている(6月自動車:同▲49.9%、自動車の部分品:同▲52.3%)。輸入については、原粗油(同▲63.1%)や液化天然ガス(同▲32.9%)などを中心として、前年比で大幅なマイナスが続いている。

季節調整値でみると輸出金額は前月比+4.7%、輸入金額が同▲2.7%となり、6月から輸出は増加、輸入は減少した。それを受け、貿易収支は▲348億円の赤字と6月(▲4,109億円の赤字)から赤字幅が大幅に縮小した。

7月は世界各国での経済活動再開が進んだことを受け、中国向け輸出が前年比+8.2%と増加、米国向け輸出も同▲19.5%(6月:同▲46.6%)と6月からマイナス幅を大きく縮小させるなど、輸出の持ち直しが続いた。今後も輸出の持ち直しは続く予想される。

### ○実質輸出は前月比+6.0%、輸送用機器を中心に米国向けが大幅に増加

為替などの価格変動の影響を除いた7月の実質輸出(実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)は、前月比+6.0%(6月:同+3.5%)となった。自動車等の輸送用機器(同+18.6%)や電気機器(同+8.2%)などが増加に寄与した。

国、地域別にみると、米国向けが前月比+41.5%と、輸送用機器の急増により6月から大幅に増加



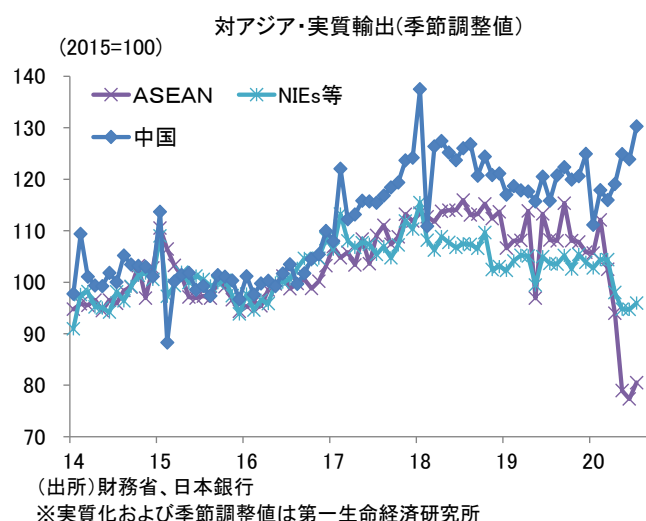
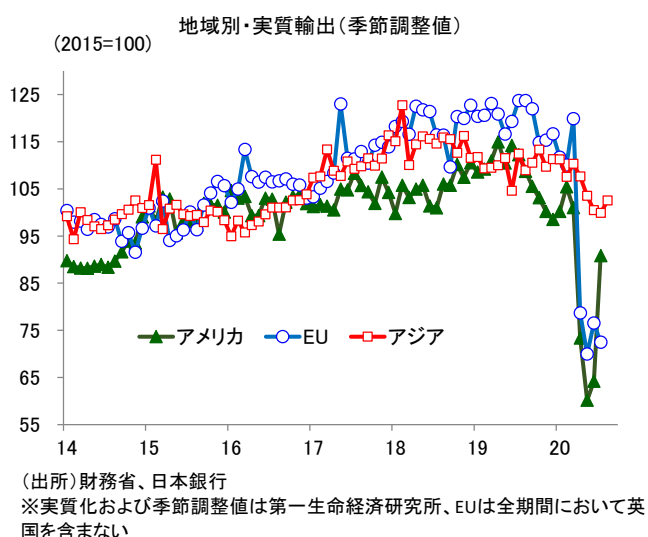
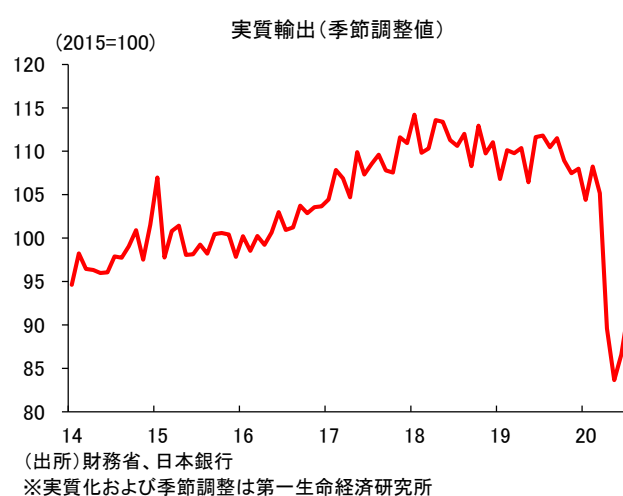
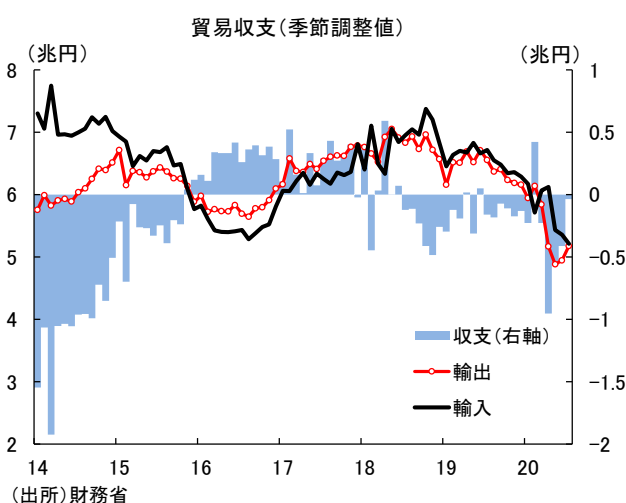
した。また、アジア向けが同+2.6%と、中国向けを中心に増加した。一方 EU 向けが同▲5.3%と減少に転じた。7月の実質輸出は2か月連続で増加、5月を底に持ち直しが続いた。中国向けが高水準を維持しているほか、経済活動再開が進んだことを受け、米国向けが大幅な伸びとなった。

### ○輸出は持ち直しが続くと予想されるが、感染拡大前の水準に戻すには長い時間を要する

7月の貿易統計は、各国で経済活動再開が進んだことを受け、自動車など輸送用機器を中心に輸出の持ち直しが続いた。一方、輸入については、原油価格の低迷を主因に前月比で減少が続いている。

8月以降も世界各国で経済活動再開が進んでいることから、輸出の持ち直しは続くとみられる。また、いち早く経済活動を再開させた中国向けが下支えをするだろう。輸入については、原油価格の低迷が続いていることから、7-9月期も前期比で減少する可能性がある。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が続いていることや米中関係の悪化などのリスクがあり、世界経済の先行き不透明感は依然として強い。今後も経済活動に一定の制限が伴うことから、輸出入が感染拡大前の水準に戻すには長い時間を要する見込みだ。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。